

Title	イノベーション創出能力強化戦略
Author(s)	旭岡, 勝義
Citation	年次学術大会講演要旨集, 23: 458-461
Issue Date	2008-10-12
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/7600
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

2 A 0 2

イノベーション創出能力強化戦略

○旭岡勝義(株) 社会インフラ研究センター)

はじめに

1. イノベーションを取り巻く環境と構造
2. イノベーション創出能力体系
3. イノベーション創出能力強化戦略
4. 今後の展開

最後に

はじめに

2008年以降事業環境は激変し、国際的なイノベーション戦略は本格化し、その展開の様相は、新たな視座の基に重大な局面を迎えている。即ち重要な資源戦略の展開である。国際資源、巨大な資金の流動化、グローバルインテリジェント情報の迅速化、消費構造や仕組みの変化、先端技術・人材能力の獲得等多極化する構造とその獲得調達のスピード及び変化への対応は、イノベーション能力強化戦略が新たな戦略として重要になってくる。基幹産業もこの数年のバブル崩壊の景気低迷を経て、業績の回復は著しかったが、世界的な環境激変の中で、その変革内容は、従来の経営の枠と異なる大きな変革を遂げる必要が高まっている。

今後の高付加価値経営構造を実現するためには、「イノベーション創出能力強化戦略」により、将来の新産業の構造または新たな事業モデル転換によって、モノづくり製造業や情報事業から高付加価値創造産業や知識社会対応産業へとシフトすることが緊急で、一段と飛躍した経営戦略が必須となる

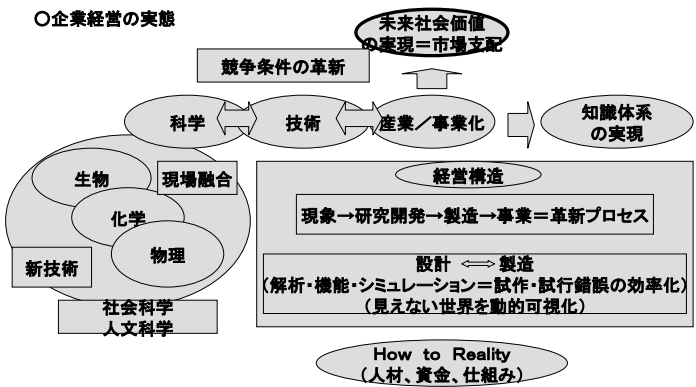
1. イノベーションを取り巻く環境と構造

各国の高付加価値産業化や対象市場・顧客に対する戦略機能の開発、それぞれ各要素技術の知見の集積、開発対象の課題の複雑性への対応や異分野の融合・統合研究等が拡大と深まりを見せる時代において、技術・事業開発人材とその融合の高度化が必要になる。しかも、世界戦略との連動を視野に入れた新事業育成への持続的な展開が、世界ファンドと結合して、確実な成果を見せ始めている。

この流れは、明確に知識社会に向けて、知識レベルをさらに高度化し、世界的な企業や顧客の価値を高める要請に、ますます変革を遂げ、実現のレベルも高度化することになる。

それぞれの持つ技術ミッションや技術インターフェースを整合させながら、全体として実用化に耐える事業開発を成し遂げていくと言う、極めて統合的な整合的な作業を展開しつつある。そこでは、対象の複雑性を乗り越える統合的な意味解釈や意味の体系的な編集作業が必要になるのであるが、こうした知の構造変革への世界的な企業の流れは、連携を含めて、熱を帯びた展開を重視しているのである。

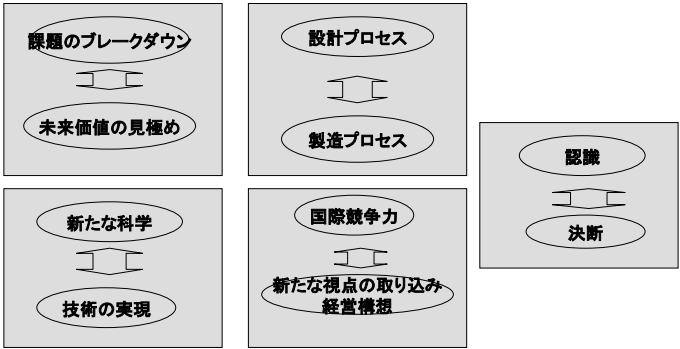
参考1. 企業経営革新実態



2. イノベーション創出能力体系

イノベーション創出能力は、課題のブレークダウンと未来価値結合能力、新たな科学と将来技術の重要性を見極める能力、設計と製造プロセスのシミュレーション等の解析能力、国際的な競争構想能力、認識と決断の経営構造形成能力等が重要な能力である。

参考2. イノベーション創出能力体系

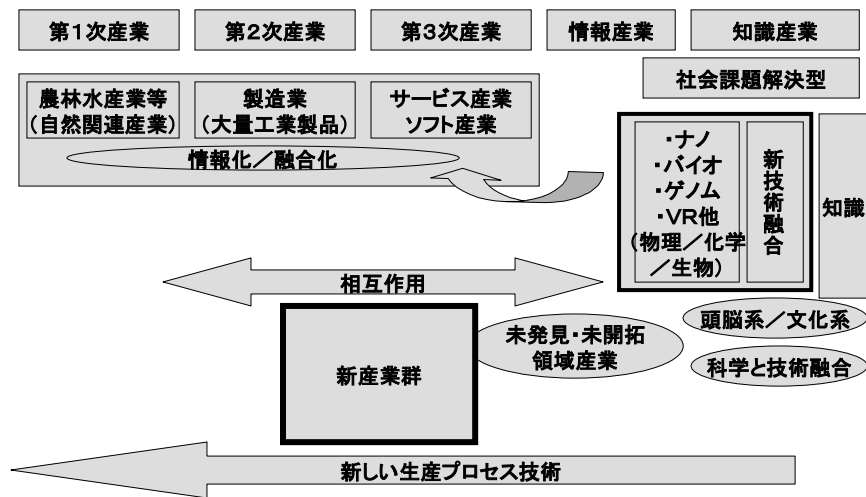


3. イノベーション創出能力強化戦略

イノベーション創出能力強化は、未来の新産業の明確にイメージ化し、そのプロセスの中で、現事業の変革をどう変えていくのか、また新事業モデルをどう描くのか、また、事業展開における時点での外部・内部要因への対応、人材流動化の強化対応することを実施することによって、経営全体及び組織に於けるイノベーション創出能力強化戦略を推進することが重要になっている。

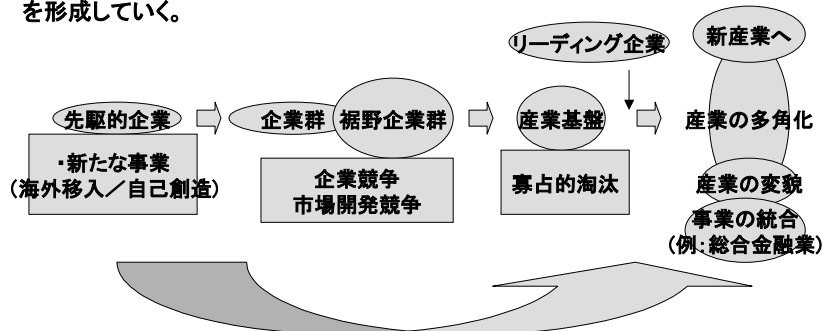
参考3. イノベーション創出能力強化戦略

1) 新産業のイメージ案



(参考) 産業創造プロセス

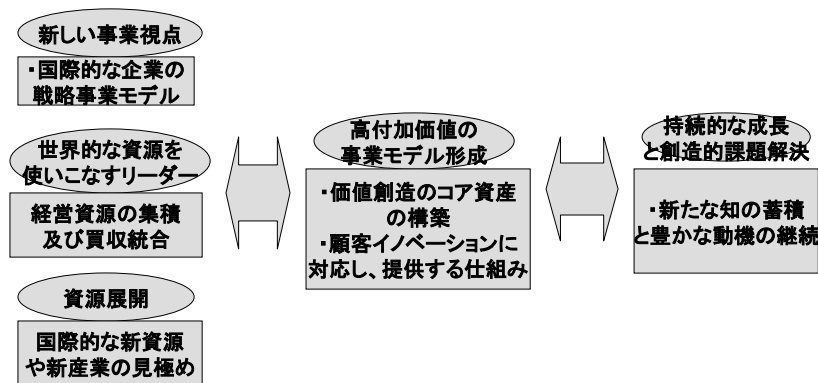
産業の創造プロセスは、先駆的企業及びその周辺企業が、新しい事業の枠や市場開発を持続的に行い、徐々に関連事業が形成され、産業基盤が強化される。やがて、このパイが新たな企業理念とビジョンを明確にしながら、確固とした産業を形成していく。



4. 今後の展開

今後の展開は、国際的な戦略モデル構築のための新たな事業視点の確立、世界的な資源を引き寄せ、買収や統合を実行し使いこなせるリーダーの育成、国際的な資源問題解決能力、これらを含めて高付加価値の事業モデルの形成（価値創造のコア資産構築、顧客のイノベーションに対応し、提供する仕組み）、これによって持続的な成長戦略を描き、創造的課題解決を行なう等がイノベーション創出能力をさらに強化することが重要なのである。

参考4. 今後の展開



企業経営が、さらに一段と飛躍した事業モデルを構想し、実行するためには、イノベーション創出能力を持続的に強化していく戦略を確立し、経営の仕組みやそれを実践する人材の育成を体系的に展開し、問題に対応する専門能力のみでなく、統合能力を有する人材ネットワークを形成することが、「知の集積」と「豊かに働く事への動機付け」を支援し続けることが、イノベーションによって、好循環の結果をもたらすことが出来るのである。

最後に

イノベーション創出能力強化戦略は、従来の企業構造とは異なる使命を明確にして推進する必要がある。

- 1) 新事業育成の明確な目標の設定と育成ロードマップの形成
 - 2) 経営の基本フレームや形成条件の明確化
 - 3) リソースの確保（国際的なリソースや集積の強化）
 - 4) 主導的な育成リーダーや経営者群のネットワーク強化
 - 5) 事業育成のための継続育成期間を含めたファンドの投資
- 等緊急性を持つ構造変革が重要である。